

令和4年度第2回青梅市美術館運営委員会会議録

令和4年10月24日
美術館研修室
会議時間 14:00～15:40
出席者 委員7名、教育長
教育部長、事務局5名

1 開 会

2 委嘱状の交付

3 教育長あいさつ

4 委員長および副委員長の選任について

委員長に橋本善八委員を選任、副委員長に佐川美智子委員を選任

5 議題

(1) 令和5年度青梅市立美術館事業計画（案）について（資料1）

事務局から説明 〈了承〉

6 報告事項

(1) 特別展「没後2年 栗原一郎展」開催結果について（資料2）

事務局から説明 〈了承〉

(2) 特別展「ふる里の心を描き続けて55年 原田泰治の世界」開催状況について（資料3）

事務局から説明 〈了承〉

(3) アートによるまちづくり推進事業（青梅市まるごとアート支援事業代替事業）の検討状況について（資料4）

事務局から説明 〈了承〉

(4) その他

7 その他

次回委員会開催日程調整

8 閉 会

〔主な質疑・応答・意見（報告事項・協議事項について）〕

○令和5年度青梅市立美術館事業計画（案）について

事務局から、令和5年度の展覧会事業について説明。

(委員) 小泉癸巳男の展覧会は前後期で展示替えをするとのことだが、作品の展示替えに日数がどれほど掛かるのか。またその間は休館するのか。

(事務局) 休館日の月曜日に1日かけて行う。展示替えによる会期中の休館は行わない。

(委員) 今年度から小学校造形作品展の開催場所がネッツたまぐーセンター(青梅市文化交流センター)へ移ることとなった。今まで展示を行ったことのない場所なので課題が出ると思うが対応していきたい。

(委員) 展覧会ごとに観覧料に差があるのはなぜか。

(事務局) 企画展は、館蔵品を用いて行うため外部借用がない。開館以来200円である。特別展は、条例上1,000円以内で展覧会ごとに設定することとなっているため、内容によって金額が変わる。共催展は、企画展と同等の扱いで200円である。

(委員) 館内工事の計画を分かる範囲で教えてほしい。

(事務局) 空調設備をはじめ、老朽化した設備の改修工事を令和6年度以降に検討している。来年度は、工事設計を行うとともに、2月初旬から業者との打合せのため休館する予定。

(委員) 令和6年度に大規模な改修を行うということによろしいか。

(教育長) 令和6年度に大規模改修を行うかはまだ未定である。空調に加え照明や床、壁面、エレベーターの5つが主に問題を抱えている。市の施設課で工事費の概算額を出すとともに、郷土博物館および市立美術館のあり方検討委員会等で、美術館を将来どうしていくのか検討し、当運営委員会でも意見をいただきたい。

(委員) 市内には、ある程度の規模の展示ができる場所が美術館以外に無い。壁面に展示ができる市民ギャラリーのような場所を望んでいる団体は多いと思う。また、この辺りからは東京や上野の方まで出ないと美術館がない。地元には美術館があるのは、とても大事なことと思う。

(委員) 大屏風展の屏風は作者や時代はいつ頃のもののか。展示ケースは調達できるのか。掛軸は展示しないのか。

(事務局) 古いものは川合玉堂の作品から、新しいものは昭和の作品まで展示する。掛軸作品は展示しない。当館には、展示ケースが無いた

め、民間業者からケースを調達し開催する。

(委員) リニューアルをすると市民の期待感も高まる。建物の修繕は、もちろんのこと、人的な手当や事業での充実を図らなければ、美術館の運営は上手く進んでいかない。市でも是非検討して欲しい。

○特別展「没後2年 栗原一郎展」開催結果について

事務局から、入館者数の分析結果やアンケートの集計結果、会期中のイベントなどを説明。

(委員) 市の広報やSNSを活用し、情報を発信していくことが重要である。

(委員) 来館者の年齢層で65歳以上が圧倒的に多いのはターゲットを絞っているのか。

(事務局) 当館の来館者は市民が多い。青梅市民の高齢化率は30%を超えており、必然的に65歳以上が多くなる。このため現代美術よりは郷愁を感じさせるものの方が相性が良い。4年に一度くらいは子供向けの展覧会を開催して美術館に来る機会を設けたいが、コロナの状況により難しい。

○特別展「ふる里の心を描き続けて55年 原田泰治の世界」開催状況について

事務局から、開催状況や会期中のイベント、来館者の分析について説明。

(委員) 原田さんは亡くなってしまったが、ファン層も高齢化しており、来たくても来れない人が増えてきている。

○アートによるまちづくり推進事業（青梅市まるごとアート支援事業代替事業）の検討状況について

事務局からビエンナーレOMEの入賞作家に対し、当該事業への参加可否についてアンケートを送付。返送状況や回答内容について委員へ説明。

(委員) 出展候補者へ送ったアンケートに、参加可能と回答した人全員がこの事業に参加するのか。もしくはその中から選ぶのか。

(事務局) 個展もしくはグループ展で参加可能者の中から選定し、開催したいと考えている。翌年度以降は、美術館の工事の関係も含め検討

したい。

(委員) 作品の運搬や展示にかかる人件費など諸経費については市で負担してもらいたい。

(委員) 出展作家を選定するのであれば、現在も制作活動を行っていること等、選定条件を決めながら進めていく方が良い。

(委員) 子ども達にも気軽に来てもらえる展覧会になると良い。子育て世代が活用しているSNSを効果的に使えると良い。

○その他

(委員) 学芸員の1人体制はこのまま続くのか。病気で倒れた場合どうするのか。最低でも学芸員が2人は必要である。

(委員) 市民の財産や子ども達の将来を築く場を預かっている施設であるため、市の将来の資産作りのためにも人材の確保は必要である。

(委員) 昨今、クラブ活動などで教員の負担を減らすため、運動部を中心に地域でサポートする取り組みがニュースなどで報じられている。文化部についてもそういった傾向になりつつある。創作する場所の提供なども、今後美術館に求められる機能の一つかもしれない。

閉会